

鳥取県農林水産部長 殿
島根県農林水産部長 殿
岡山県農林水産部長 殿
広島県農林水産局長 殿
山口県農林水産部長 殿
徳島県農林水産部長 殿
香川県農政水産部長 殿
愛媛県農林水産部長 殿
高知県農業振興部長 殿

中国四国農政局生産部長

小雨、渇水に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について

中国四国地域の最近 1 ヶ月間の気象状況について、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、気温と日照時間は平年を上回り、降水量の少ない状況が続いている。

今後、小雨傾向が長期化した場合、農作物等への影響が懸念されることから、農作物の作付け・生育状況等の把握、水源貯水・水利調整の状況の把握及び農業用水確保等に係る対策をよりの確に実施するため、本日、中国四国農政局長を本部長とする「中国四国農政局渇水対策本部」を設置し、渇水に対する迅速かつ効率的な対応を図ることとした。

については、「農業技術の基本指針（令和 4 年改訂）」を踏まえ、下記について、各地域の状況に応じた迅速かつ適切な対応が行われるよう技術指導の徹底を図られたい。

記

1. 共通事項

農業用水の確保のため、関係機関との調整を図り、計画的な配水が行われるよう措置する。

【水稻、大豆】

2 水稻

農業用水の供給に影響が生じる可能性がある場合には、事前に利水調整に関して地域内の話し合いを進め、不足が見込まれる場合には、番水や用排水の反復利用等を行い、農業用水の有効活用に努める。

<関連情報>

農林水産省 HP 「渇水時の対応」

https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/k_kassui/

農林水産省 HP 「水源情報」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/suigen/>

3 大豆

播種後の乾燥による発芽不良を防ぐため、碎土、整地、播種時の覆土・鎮圧は丁寧に行う。

干ばつが生じやすい地域では、土壌の保水性を改善するため、深耕、堆肥の施用等の

適正な栽培管理に努める。特に、開花期以降に干ばつが生じた場合は、落花・落莢が多くなり着莢率が低下するほか、不稔莢の増加、着粒重の減少等を招くため、状況に応じた適切なかん水を行う。

【園芸作物】

4 野菜

(1) 全般

- ① 干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保や土壌の保水力を高めるとともに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。
- ② ハダニ類、アブラムシ類等、干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

(2) 特に葉茎菜類

乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。

(3) 特に果菜類

- ① 不良果の摘果、若どりを行い、着果負荷の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努める。
- ② 老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の蒸発抑制に努める。
- ③ カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

5 果樹

- (1) 干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かん水を実施する。
- (2) 草生園においては、干ばつ期の草刈りを実施し、防水透湿性シートによるマルチ栽培を行っている園地においては、かん水チューブによるドリップかん水を行う等により、地表面への直接かん水に努める。
- (3) なお、かん水に当たっては、かん水設備の漏水、目詰まり等に留意し、適切にかん水が行われるよう事前に点検を行う。
- (4) 干ばつ時に発生しやすいハダニ類については、発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

6 花き

- (1) 干ばつ傾向にある地域の露地栽培の花きについては、用水の確保や土壌の保水力を高めるとともに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。
- (2) ハダニ類、アブラムシ類等、干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

【畑作物・特産物】

7 茶

- (1) 茶園に敷草を行い土壌水分の蒸発を防ぐとともに、用水が得られるところでは適切なかん水に努める。なお、改植・新植後間もない幼木園や、台切りや中切り等の剪定を行った茶園においては、少雨の影響を受けやすいことから、少雨対策は、これらの茶園を優先して行う。
- (2) 干ばつ時に発生が多くなるチャノミドリヒメヨコバイやカンザワハダニ等害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

【畜産】

8 飼料作物

- (1) 干ばつの影響を受けやすい土壌については、土壌の保水力を向上させるため有機質の積極的な施用に努める。
- (2) 草地については、過放牧、過度の刈りや短い間隔での刈取りを避け、貯蔵養分の消耗を軽減するなど草勢の維持に努める。また、夏枯れ等により草勢の低下が見られた場合には、必要に応じ追播等的確な維持管理作業を行う。
- (3) 青刈りとうもろこし、ソルガム等については、収穫期が近い場合にはコストに配慮しつつかん水に努め、かん水が困難又は草勢の回復が困難と見込まれる場合は、早期に収穫を行い品質低下の防止に努める。